

岩手県久慈市夏井川河口におけるカワラメキリグモおよびサッポロフクログモの採集記録

渡辺修二

The record of *Gnaphosa kamurai* (Araneae: Gnaphosidae) and *Clubiona sapporensis* (Araneae: Clubionidae) at the mouth of the river of Natsui-gawa in Kuji City, Iwate Prefecture

Shuji WATANABE

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

Abstract

On July 22, 2019, *Gnaphosa kamurai* and *Clubiona sapporensis* were collected from under driftwood at the beach located at the mouth of the river of Natsui-gawa in Kuji City. This is the first record of *G. kamurai* in Iwate prefecture. Females of *C. sapporensis* lived with her juveniles in a sac-like retreat, which was closely built together under driftwood.

序論

岩手県の海岸ではこれまでクモの調査があまり行われてこなかったが、近年の調査により、イソコモリグモ (新海, 2008) やエゾコゲチャハエトリ (須黒, 2019) が県内初記録として報告された。ただし、イソコモリグモは東日本大震災の津波以降、生息が確認されていない (谷川, 2012)。今回、久慈市夏井川の河口で採集されたカワラメキリグモとサッポロフクログモについて報告する。

方法

2019 年 7 月 22 日、夏井川河口 (岩手県久慈市湊町) において、砂浜の窪みに堆積した流木等を取り除き、その下に生息していたクモを採集した。採集した標本は、約 70% のエタノールを入れたスクリーン管に入れて保管した。標本の同定は小野 (2009) を参照した。体長は、頭胸部の前端から腹部末端までの長さを実体顕微鏡のマイクロメーターを用いて計測した。

結果

流木の下から、カワラメキリグモ *Gnaphosa kamurai* Ovtsharenko, Platnick & Song 1992 及びサッポロフクログモ *Clubiona sapporensis* Hayashi 1986 が採集された (写真 1, 2)。カワラメキリグモは、これまで本県で採集記録がない。サッポロフクログモの雌は流木の下に袋状の住居を作り、子グモ

110 頭と同居していた。流木の下には他の個体の住居が多数、近接して作られており、団地状だった (写真 1)。

採集した標本数及びそれらの体長は以下のリストのとおりである。標本リストには、各標本の性別、体長、岩手県立博物館標本番号を示した。

標本リスト

採集地：岩手県久慈市湊町夏井川河口

採集日：2019 年 7 月 22 日

カワラメキリグモ

Gnaphosa kamurai Ovtsharenko, Platnick & Song 1992

雄成体, 体長 7.3mm, IPMM245031

雌成体, 体長 13.1mm, IPMM245032

サッポロフクログモ

Clubiona sapporensis Hayashi 1986

雄成体, 体長 6.9mm, IPMM245068

雌成体, 体長 6.9mm, IPMM245069

雌成体, 体長 7.1mm, IPMM245070



写真1 カワラメキリグモ



写真2 サッポロフクログモと子グモ

写真中央の袋状住居に、雌成体と多数の子グモが生息していた。その左右の住居にも、それぞれ雌成体と子グモが生息していた。

考察

サッポロフクログモ *Clubiona sapporensis* Hayashi 1986 は、海岸や山地などの、流木の下や河原の石の下に生息している。日本、韓国、ロシア極東地域に分布し、国内では北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、長野県で採集されている（小野, 2009; 新海ら, 2018; 菅波, 2019）。本種が越冬する際、海岸では流木の下面に袋をたくさん重ねた越冬団地を作り、山地ではブナの実の総苞（殻斗）の中に袋を作ることが報告されている（福島, 1995）。今回の調査において、夏季に、海岸の流木の下に団地状の住居を作り、その中で産卵し、ふ化した子グモと同居することが示された。

今回調査した砂浜において、流木が堆積した場所のうち、本種が確認されたのはその一部だったことから、海岸では生息に適した空間が限られていると推測される。団地状に住居が造られていたのは、本種が集団になる性質を持つからではなく、住居として利用できる空間が限られていたことが原因

であるかもしれない。

カワラメキリグモ *Gnaphosa kamurai* Ovtsharenko, Platnick & Song 1992 は国内に広く分布し、北海道、本州、九州、四国、南西諸島で記録されている。本種を含むメキリグモやその近縁種は、体色が黒褐色から灰褐色で、特徴的な斑紋などは見られないものが多く、外見から同定することが難しい。また、上述したサッポロフクログモなどフクログモ類も、多くは体色が黄褐色から赤褐色で外見的な特徴に乏しく、区別が難しい。カワラメキリグモは、今回の採集が本県における初記録となったが、おそらくこれまでも発見されていたものの、同定の困難さから見逃されてきたと思われる。今後、海岸におけるクモ相の調査を進めるとともに、本県におけるメキリグモ類やフクログモ類の分布を明らかにしたい。

引用文献

- 福島彬人（1995）再び クモ三題ばなし。しのびぐも 25: 6-10.
- 小野展嗣（編著）（2009）日本産クモ類。東海大学出版会、秦野市。
- 新海明（2008）陸中海岸でイソコモリグモの大産地を発見。Kishidaia 94: 23-3.
- 新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生（2018）CD 日本のクモ ver. 2018.
- 菅波洋平（2019）奥州山脈焼石連峰焼石岳の土壌から採集されたクモ類。Kishidaia, 115: 115-121.
- 須黒達巳（2019）日本産ナミハエトリグモ属の2種について。Kishidaia 115: 26-29.
- 谷川明男（2012）大津波とイソコモリグモ。Kishidaia 100: 34-36.

要 旨

2019年7月22日、久慈市夏井川の河口に広がる砂浜において、流木の下からカワラメキリグモ *Gnaphosa kamurai* およびサッポロフクログモ *Clubiona sapporensis* が採集された。カワラメキリグモは岩手県における初記録である。サッポロフクログモの雌は、袋状住居の中で子グモと同居しており、流木の下には同様の住居が密接して造られていた。

キーワード：クモ、海岸、岩手県初記録